

目の前に世界地図がある。多少色褪せた世界地図に当時の不思議な世界感が見え隠れする。

山手線の車窓から到着間際に新橋のSL広場側を見ると、何か催し物をやっているのが見えた。1年前その日の夕刻、怪しき者が集まり近くの個室で食事をする事になった。待ち合わせの時間まで少しあったので、暇つぶしにその催し物をやっているSL広場を探索することにした。

そこには古文書屋がおよそ30店ほど集結して、その一角だけが独特のかび臭さをカモシ出していた。空間は、大きく二つに分かれていた。夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、谷崎潤一郎など、会ったことも会おうと考えたこともない人たちの文部科学省推薦の古書があり、もう一つの空間では戦記物を多く扱っていた。

大東亜大戦に参加した者たちの生き様を描いた『丸』は、100円ショップでいつも読んでいたので購入する気にはなれなかった。ラバウルの魔王と呼ばれた西沢広義、ラバウルの撃墜王・大原亮治、加藤隼戦闘隊で旭川出身の加藤建夫、一撃離脱の岩本徹三、プロペラトルクを利用した左ひねり込みの坂井三郎などの戦闘機もののエースパイロット系は昔からたつぷり知っているし、男

子の闘争心を奮い立たせてくれるのは良いが、あそこは立たせてくれないので今回はパス。古書と言っても新作の古書などあるはずもなく、まあ、こんなものだと思っていた。

一番暇そうなコーナーを覗いてみた。地図ね、江戸時代後期の物は持っていたので食指が動くことはなかった。小さなケースに世界地図っぽい物があつた。世界地図が古書になるのか？ この地図はいつ頃の地図なのか興味があつたので、店主の許可をもらいビニールからひっぱりだし左隅の小さい文字を凝視した。

な、なんだって！ 昭和16年（1941年）2月だつて。そ
うなると俄然興味が湧いてきた。はい、購入しました。3500円なり。会食も終わり、ホテルに戻って、先ほど購入した世界地図を眺めた。さらっと見ると右側にあるはずの**アメリカ本土がない**。太平洋の西側にはサイパン、パラオ、マーシャル諸島など多くの島々があり、以前は30年間くらいドイツが支配し

1941年の世界地図には アメリカ本土がない!?

Vol.141



ていた領土が、第一次大戦後には日本領になっていく。よく見るとグアムだけが真円状でアメリカ領になっている。調べてみると20世紀になる寸前のスペインとの戦いでアメリカが勝ったからなのだが、別の地図を見るとグアムの西側、フィリピン側にパツクマンの口のように回廊になっている物もある。事情は分からないが、その時からアメリカと日本の桁がず

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作物する。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

れ始めたのかもしれない。

アジアをよく見ると、この地図にはタイや仏領印度支那(ベトナム)はあるがカンボジアとラオスがない。インドはあるがビルマ、バングラデシュ、パキスタン、セイロンもない。少し西に行くところのクリミア半島がソ連との間に国境線がある。

なぜなの? 調べてみると、この地図が作成された時点はドイツに占領されていたからだ。そのことを理解すると、現在のクリミアをロシアが取り返したのも理解できる(はずがない)。

日本軍はどこまで戦線を伸ばしていたのか?

では日本領はどうなっているのか。千島列島は四島だけではない。ソ連本土のカムチャツカ半島の南端まで延びている。そこには日本の水産加工場があった(確かニチロ水産)占守島があり、ポツダム宣言受諾後の45年8月18日以降に戦闘が始まった。北緯50度の国境があった樺太は私の住む地区とゆかりが深い。戦後、樺太から多くの者が引き上げて営農をすることになり、記念碑も存在している。

最近わかったことだが、この占守島の戦いに長沼町出身者がいたのだ。その方の孫が私と同級生だった。

ここでは言えないが、確かに同級生はあの時……あれやって……あんなことまでさせて……今でもこっさり……なのだから、しっかりと闘争心は祖父の遺伝子を引き継いだものなのだろう。

中国大陸には満州国がドーンと構えている。あ——、この満州国の扱いが上手く行けば良かったのにな。そしてよく聞け! 今の世界地図の赤い国境の線が未来永劫であるはずがない。

と言うことで当時の日本軍はどこまで戦線を伸ばしていたのか興味があったので、いろいろツールを使い再確認してみた。

北は先ほど述べたカムチャツカ半島の南端、ではなくさらに北のアッツ島、キスカ島を占領した。これらの島はソ連領ではなく、アメリカ・アラスカ州になる。つまり、**日本は唯一アメリカ本土に攻撃を加え占領したことになる。**しかし、占領して11カ月後にはアッツ島はアメリカ軍との戦いで日本軍は全滅した。

映画にもなったキスカ島から日本軍が撤収できたのは、司令官の一人である樋口李一郎中将の功績もあると言われている。リトアニアのユダヤ人を救ったとされる杉原千畝は有名だが、ではそのユダヤ人たちは簡

単にソ連、満州を通過し最終目的地に到着することができたのか?

今の日本人はみんな知っているが、ビザと目的地の最終入国許可は別なものである。シベリア鉄道を使いユダヤ人たちに満州入国させ、日独防共協定からのドイツのプレッシャーをはねつけたのは、先ほどの樋口李一郎である。そして樋口の行為に理解を示したのは、のちにA級戦犯となる東条英機になる。樋口李一郎はもう一つの歴史に埋もれたユダヤ人功績者でもあると言える。ちなみにその後のユダヤ人たちの上海やアメリカ行きの渡航手続きをしたのは、現在のJTBになる。

では、当時の日本軍はもつと西に進軍したのか。42年には日本軍はアメリカ本土攻撃を行なった。オイオイ本当かよ、って話だ。

有名なアメリカ本土攻撃は、海軍の藤田信雄飛行兵曹長と奥田兵長が潜水艦から浮上して組み立てられた零式小型水上機(零式、ゼロ戦ではない)からオレゴン州に焼夷弾を2発落とした。戦後、彼が爆弾を落とされた町からウエルカム状態で迎え入れられた。日本が真剣に徹底的にアメリカと戦い、チキン野郎扱いされなかったことに感謝だ。

極めの攻撃ターゲットはロサンゼルス北のサンタバーバラの石油基地

や船舶になる。15年前にこのサンタバーバラのピアのイタリア・レストランで食べたパスタは絶品だった。

ウエイターに、トマトベースで海鮮物があつてアルデンテみたいなパスタはあるかな?と聞いた。ウエイターは「たぶん作れると思います」となった。彼は確認のためキッチンに行き戻って来てこう言った。「アルデンテにしてくれなんて、アメリカに来て初めてだ」と。シェフはどうやら本場イタリアから来たと言っていた。確かにオリーブガーデン、レッドロブスター、アップルビーで食べるパスタは中折れべるるふんにチャーノ系ばかりだ。もちろん美味しかったし、サービスが良かったのでチップは多めに置いた。

そう言えばスピルバーグの映画に三船敏郎主演でこの攻撃をヒントに作られた『1941』はスーパーB級の誉れが付く作品だ。その日本軍が攻撃したサンタバーバラから東に車で1時間半のところにはキヤマレロ飛行場があり、サンタバーバラ攻撃でこの飛行場が拡張されたと聞いたことがある。このキヤマレロ飛行場にはロサンゼルスから5回ほど飛行したことがあり、その飛行場のイタリア人飛行学校の校長はボケ、カス、ペテン師野郎だった。その辺のことは次回にでも書こう。